

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム もみじの里

日付 平成19年3月20日
評価機関 特定非営利活動法人
 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「おはようございます。すぐ近くで道に迷ってしまっ…」と挨拶する私達を出迎えてくれたのは、管理者と「女性職員」と、思った。エプロンと三角頭巾も可愛らしく、ニコニコと愛想の良い方で、リビンググループに入るとすぐにコーヒーのサービスでもてなしてくれた。仲良らしい、はなさんのお世話も堂に入ったものだ。本物の職員は「女性職員」のもみじさんの動きにさりげなく気を配り、必要な時には、さっと間に入る。その間合い・合の手が実に良い。もみじさんの思いやり・やさしさを包み込んだ待ち方だ。はなさんの家族も、もみじさんの事をよく理解してくれていると言う。

知的障害を持ち関連施設で暮らし、自宅から通ったりしていた人と、近隣の住人で、それぞれ認知症の症状もある人達がここで穏やかに、そして生き生きと暮らしている。他のグループホームにはない難しさや悩みもある中、もみじさん達は、素晴らしいケアの達人達のいるこのホームで「私らしさ」が尊重され、出来る事を最大限に発揮した日々を送っている。知的障害のある人も年を取り、このようなグループホームも今後益々必要になってくる事だろう。認知症ケアの勉強をしてきただけの人では対応できないこのホームの考え方、在り方に、そして「生まれつきの障害がある無しにかかわらず、また認知症状のある無しに関わらず、一人ひとり大切な人として、皆一緒に暮らせる所」と言う管理者の熱い言葉に私は胸打たれた。今までの私の心を、さらに大きく包み込む包容力を、このグループホームから頂いた。(人名は仮名です)

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

このホームも3月で3歳。管理者も交代して間がないと言う事なので、職員全員で3歳らしい再出発に向け、手の届く小目標を設定して下さい。やりたい事は山程あるでしょうが、優先順位を付ける事、小目標の達成感がしっかり味わえる方法を工夫する事、職員間で本音が言い合える場を持つ事等、考えてみてはどうでしょうか。

家族や地域の人達との交流、ホームや関連グループ外の人達とのお付き合いは、細やかな事から一つ一つ膨らませていって下さい。利用者の為であり、地域の人々の為でもあると思います。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「自分が小さい頃、認知症の祖父の世話もしながら暮らした事、仕事とて障害者とかかわる中で、ある保護者から「お互いに年を取っていく。自分が死んだら、誰がこの子を見てくれるか」と言われた事が、今の仕事の原点になっている。」等語る管理者から、このグループホームが目指そうとしているものを感じる事が出来た。 現在、取り組みようとしている事の一つが、「心も体もしっかり動かす」と言うことだ。屋外では全員でウォーキング、屋内では軽い体操や屋内運動(平行棒で歩行練習、金魚運動、自転車こぎ等、その日の体調・気分・障害の程度に合わせて行なう)や歌・ボールや風船を使ったレクリエーション・手先を使った壁面制作・塗り絵や習字計算その他、色々な活動への誘いかけがあるという事だ。この利用者には、必要な事と思う。 また、ホーム内での役割を持ち、生き甲斐を感じてくれている人、毎日日記をつけている人等、それぞれのその人らしさを大切にしている様子がよく伺われた。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 利用者の各部屋の入口には「さくら」「こすもす」等、花の名前の名札が掛けられている。「うちは、ええ名前じゃろう」と教えてくれる人もある。混乱もなく、お気に入りの名前ようだ。3ヶ所の共用トイレはわかり易い表示をしてある。リビングルームでは机や椅子の位置、ソファの位置等、良い場づくりの為に工夫していると言う。畳コーナーも、横になる人、テレビを見たり、節分の用意で張り絵に精を出す人等、活躍している。洗濯物が干しているウッドデッキも、差し掛けをしてティータイムに使う予定と言う		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 台所仕事、洗濯物干し、たたみ、色々な家事は出来る限りして頂く。ここでは「～して下さいますか？」ではなく「わあ、この洗濯物、どうしようかな。」の誘い水に、「私がしてあげらあ、貸してみられえ」とくる形が多い。「もう忙しい、忙しい。あれもしないといけないし、これもしないといけない。この人の世話もしてあげないといけないし、お茶も入れてあげないし…」前述のもみじさんの、こういった状況の他にも、その人その人に合わせた、実にうまい対応があちこちで見られた。 少し会話が不自由で車椅子を上手に操るかりんさんは、私の腕を取り部屋へ案内してくれる。毎日書き続けているという日記も見せてくれる。平行棒の所まで行って歩いて見せてくれる。自分で出来る事を誇らしげに教えてくれるかりんさんの笑顔は、職員の誇りでもあるに違いない。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 他のグループホームにはないこのホームの特徴を、もっと多くの人に知って頂く方が良いのではないだろうか。私自身、話には聞いていたが、実際に入らせて頂いたのは初めてだ。運営推進会議がとてうまく運営されていて、少しずつその機能を高めている事は今後を期待できるが、他の方法で少しずつ「家族とのコミュニケーションの取り方、情報提供の方法」「地域社会の人達との交流」を模索する中で、オープンにしていって頂きたい。家族や地域の人達が、今以上にこのホームを「私達のホーム」と感じるようになれば、必ず、サービスの質は向上するだろうし、何か問題が発生しても「私達の問題」としてとらえ、ホームと一所に考えてくれるのではないかと思う。		